

★定期上映 4月20日(土)～7月14日(日)の土日祝

6/1 (土) 県民の日 全回無料
7/1 (月) 我孫子市市制施行記念日 14時、15時のみ上映、無料

テーマ番組「冥王星」

冥王星は、今は準惑星と定義されていますが、かつては太陽から最も遠い惑星として多くの人に知られていました。その冥王星にスポットをあてて、発見までの物語や接近した探査機の観測結果などを紹介します。

星空解説「今夜、なにがみえるかな 2024 春」

春の星空は、春の大曲線をたどると分かりやすくなります。北の空から南の空へと、星空を雄大に横切る大曲線。視界の開けたところで眺めたくなる春の星々。そんな星空の物語を紹介します。

脚本・演出：駒井仁南子 プログラム：佐藤幹哉

★土日祝の上映時間	テーマ番組 10:00～ / 13:00～ / 15:00～ 星空解説 11:00～ / 14:00～ / 16:00～ テーマ番組、星空解説ともに約20分
-----------	--

- ・定員：各回先着50名（上映1時間前から発売）
- ・費用：高校生以上100円（中学生以下無料）
- ☆平日のみ団体上映を受付（2日前までに要予約。ただし、休館日を除く）

★星空たんけん観望会

春の星空、春の大三角、春の大曲線を見よう!

日時：5月18日(土) 19:00～20:30 (受付開始18:45～)
費用：100円（中学生以下無料）
持物：懐中電灯（赤色灯推奨）
定員：先着50名（小学生以下保護者同伴）
申込み：5月2日(木)～5月17日(金)までに水の館
問合せ：水の館 TEL.04-7184-0555



★Enjoy 手賀沼！ 2024

～翔んで手賀沼！水辺より愛をこめて～

日時：5月12日(日) 9時～15時30分
場所：手賀沼親水広場 水の館 鳥の博物館
*当日は、水の館プラネタリウム、鳥の博物館 入館無料
お問合せ：我孫子市手賀沼課 TEL.04-7185-1484
実行委員会 (*当日のみ) TEL.080-4914-5416
メール enjoy@tegado.com
http://abiko-city.jp/enjoy-teganuma/



手賀沼周辺のイベント情報

※手賀沼周辺のイベントへのお問い合わせは
手賀沼課 TEL.04-7185-1484 へ

★我孫子市環境レンジャー春のネイチャーイン

環境レンジャーと一緒に観音寺や中野家・星野家など、春の湖北の史跡・仏閣を巡ります。

日時：4月20日(土) 午前9時30分～午前11時30分
※荒天中止
場所：湖北駅改札口集合
定員：先着20名(要申込)
費用：無料
持ち物：歩きやすい服装、飲み物、雨具
申・問：4月18日(木)17時までに
手賀沼課 電話 04-7185-1484



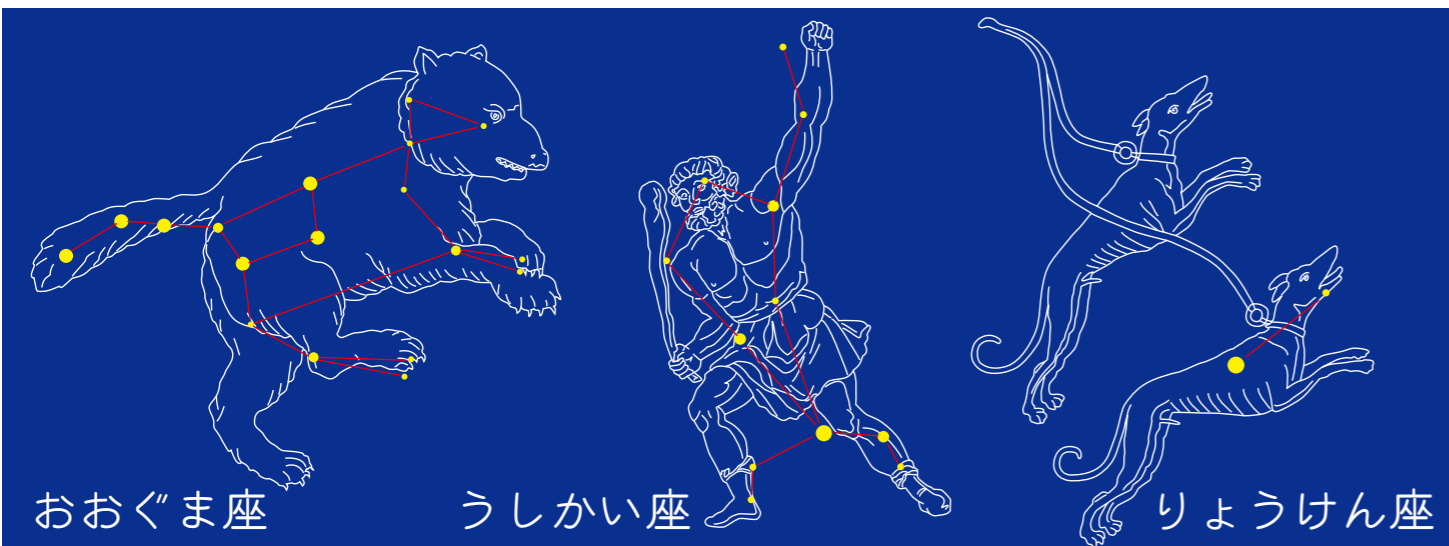
2024年2月17日、
H3 ロケットの打ち上げに
成功！うれしいな～



H3 ロケット打上げ成功 ©JAXA

星座の物語 ~春に見られる星座たち~

冬空に輝いていた多くの一等星が西の空に傾き、春の星空は落ち着いた印象を受けます。そんな中、北斗七星から始まる春の大曲線は、数少ない一等星を案内してくれます。うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカなど、春の大曲線は夜空を大きく横切ります。四季によって彩りを変える星空。春の星空は雄大な星々の広がりを感じられます。



おおぐま座

うしかい座

りょうけん座

おおぐま座は知らなくても、北斗七星という星々の名前を聞いたことがある方は多いことでしょう。北斗七星はおおぐま座の腰の辺りから尻尾にかけての星の並びです。春は夕暮れから夜明けまで、北極星を中心に移動していく姿を見られます。

うしかい座はトレミーの48星座のひとつ。最も古い星座のひとつです。春の大曲線からたどるうしかい座のアルクトゥールスは、全天で4番目に明るく見える恒星です。アルクトゥールスをセンターにV字型の星の並びがうしかい座になります。

うしかい座が引き連れる猟犬と言われていますが、星座としては17世紀に入ってから、ポーランドの天文学者が設定しました。りょうけん座の一番明るい星には「コル・カロリ」という名前がつけられています。これは、「チャールズ王の心臓」という意味で、昔の星座絵では、ハートマークが描かれていたりします。

2024年春の天文イベント

4月 ポンズ・ブルックス彗星が明るい

肉眼でも見られる彗星を肉眼彗星といいます。3月下旬から5月初旬までポンズ・ブルックス彗星が明るくなります。ただ明るくなるといっても、5等級ほど。よほど夜空が暗くないと肉眼でみるのは厳しいかもしれない肉眼彗星です。この彗星は70年に一度、地球の近くを通ります。次回見られるのは、2095年まで待たなければなりません。

5月5日(日) みずがめ座η(エータ)流星群

南半球側でよく見られる流星群ですが、北半球でも見られます。しかし三大流星群に比べると出現数は少なく、根気よく空を見上げる必要があります。GW中でもありますので流星群を目的とせず、ちょっと星空を見上げる気持ちで観察すると良いかも知れません。

4月から7月 二重星を観察してみよう

北斗七星の柄の部分。その端から2番目の星は、ミザールと呼ばれています。このミザールをよく見てみると、極めて側にもう一つ少し暗い星があるのが分かるでしょうか？この星をアルコルと言います。古くから二つの星が見えることは知られており、視力検査にも使われていたということです。

6月3日(月) 月と火星が接近

惑星と恒星の見分け方で良く知られるのは、惑星は瞬かす、恒星だけが瞬くという見方です。しかし、いざ探そうとするとなかなか難しいものがあります。火星は木星ほどは明るくなく、夜空に溶け込んでいます。そういう惑星は月を目印にすると見つけやすくなります。6月3日の夜明け前、細い月の近くに見える赤い星が火星です。同様に7月2日頃、7月30日頃にも並んでみることができます。



星空紹介コーナーの星座は※マークが付いています。

国立天文台

2024年5月中旬 21時頃
東京の星空

天文ニュース H3ロケット打ち上げ成功

2024年2月17日、これからの日本の宇宙開発を主導するH3ロケットの打ち上げが成功しました。昨年の初号機は打ち上げ失敗。その教訓を活かしての成功です。失敗からの1年。その原因追及と、さらなる安全性の向上を図った技術者達の努力が報われた瞬間でもありました。ロケットが安定して成功するまでは、失敗も含め打ち上げのひとつひとつが大きな意味を持ちます。2号機の成功は、日本の宇宙開発の扉を大きく開くことになりました。

星空ギャラリー 最新のロケット情報

水の館プラネタリウムの入り口奥にある番組テーマに沿った展示スペースです



ファルコン9ロケット



オリオン宇宙船

2024年2月、日本で新しく開発されたH3ロケットの打ち上げが成功しました。また米国では、民間企業が国際宇宙ステーションまで宇宙飛行士を乗せるロケットを開発しています。JAXAやNASAをはじめとし、多くの民間企業もロケットを打ち上げる時代になってきました。今、打ち上げられているロケット、現在開発が進んでいるロケット。様々なロケットを紹介します。

天文クイズ

全世界では1年間に大型ロケットを何回くらい打ち上げている？

- ①10回くらい
- ②50回くらい
- ③200回くらい

(答えは水の館プラネタリウム入り口付近にあります)

2024年度春のスタンプ

スタンプは水の館プラネタリウム前にあります。